

2020年5月25日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 89「香りの研究」 門地 里絵 (花王株式会社)

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■理事長より

新型コロナウイルスの対応にご尽力くださる皆様へ感謝し、ご苦労されている皆様にお見舞い申し上げます。この時期の学会活動には3種類が考えられると思います。できる限り常設活動を維持すること、状況に合わせて柔軟に活動形態を調整すること、そして今ならではの活動で貢献の道を探ることです。関係の方々に支えて頂きながら、成果発表の場の維持、会議等のオンライン形態への切り替え、新型コロナWGの活動などがあり、これらが学会の歩みを作っていきます。お知恵とご協力をよろしくお願い申し上げます。

理事長・田中 共子

■<重要なお知らせ>2020年度第33回大会の開催方法の変更について (学会事務局)

本年度の第33回大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、通常開催を取り止め、学会HP上でのWEB開催とすることといたしました。

大会参加や研究発表の方法等は、学会HP (<http://jahp.wdc-jp.com/>)、大会HP (<http://jahp.wdc-jp.com/conf/33rd/>)をご覧ください。また、今後、第1号通信にてお知らせいたします。

会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご高配賜りますようお願い申し上げます。

2) 健康心理学コラム Vol. 89

「香りの研究」

門地 里絵 (花王株式会社)

「バラの香りは何千年の間、人の心を掴んできた。なぜ心理学者はその秘密を解こうとしないのか。」これは、私が今の職場である化粧品メーカーで働き始めたときに、上司に言われたことである。アロマセラピーの観点から、香りに関心のある研究者や臨床家は多い。しかし研究対象として香りを扱うことは非常に難しい。香りは、濃度や空調設定等に細かく配慮をしても、経験する人の記憶や先入観で簡単に印象が変化する。しかもその印象を、「好きー嫌い」以外の表現で言語化することも難しい。刺激操作と反応測定の両方が難しいのだ。しかし、冒頭の問いに対して、実験の難しさを理由にするのは逃げのような気がして、今も反論できないままである。現在の私は、香りを作り出す調香師、新香料を生み出す合成化学の専門家、嗅覚細胞の応答性を調べる生物学者など、多様な専門家と共に研究員として働いている。彼らの仕事は緻密で、それに対する心理学の物差しは非常に粗い。物差しの粗さを、「科学的ではない」と批判されることさえある。しかし、主観的な人の心を考察するとき、心理学にできることは多い。バラの香りについては、リラクセーション作用 (駒木, 2012) や、性ホル

モンの調整作用 (Shinohara et al., 2017) などが報告されている。これらの研究は、薬理的な作用で解釈するものも多いが、視覚などの他の感覚との相互作用や、記憶のような認知過程を媒介して、印象や表象そのものが人にもたらす効果を語る事ができるのは心理学と脳科学だけではないかと思う。近い未来コバラの秘密を解くのは、心理学者であってほしいと思っている。

引用文献

駒木 亮一 (2012). 白バラ「ローズ・アルバ」の香り成分にリラックス効果とメラニン生成抑制効果. *Aroma Research*, 13, 350-351.

Shinohara, K., Doi, H., Kumagai, C., Sawano, E., & Tarumi, W. (2017). Effects of essential oil exposure on salivary estrogen concentration in perimenopausal women. *Neuroendocrinology Letters*, 37, 567-572.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>